

2003年2月24日  
博報堂生活総合研究所  
博報堂 広報室

博報堂生活総合研究所 調査

障害者・高齢者に対する、生活者のサポート実態と意識

## まごころ調査

聴覚障害者に対し「困っているときにサポートする」のは他の障害者の半数。  
半数以上(53.1%)の人が「手話を習ってみたい」

博報堂生活総合研究所では、3月3日の「耳の日」にちなみ、生活者374名に対し、「聴覚障害者」や「視覚障害者」、「車椅子に乗っている人」、「高齢者」に対する「サポートについての意識調査」を実施いたしました。このたびその速報データがまとまりましたので、ご報告申し上げます。

これによると、聴覚に障害のある人に対して、「困っている時にサポートする」のは32.5%で、「視覚に障害のある人」、「車椅子に乗っている人」に対するサポート意識がともに6割を超えるのに比べて、約半分であるのがわかりました。その理由として、「聴覚に障害のある人が見た目ではわからない」という意見が多く、「見えない障害」と言われる聴覚障害の問題を反映した結果となりました。

聴覚に障害のある人に対する「サポートに関する知識」についても、「サポートするのに十分な知識を持っている」人は5.8%しかいませんでした。これに関連し、「障害のある人をどうサポートするか」といった基礎的知識は、総合教育など学校授業で取り入れるべき：93.2%と、学校教育に対する期待が高くなっています。

また、手話についての興味が高く、「手話に興味がある：57.3%」「手話を習ってみたい：53.1%」と、半数以上の人に興味を持っています。特に、女性は「手話に興味がある：74.1%」「手話を習ってみたい：67.9%」と約7割の人が手話に興味を持っていました。

### 調査データ

調査概要

調査対象：374名(18歳～76歳 男女：首都圏)

調査方法：郵送調査

調査時期：2002年10月

本件に関するお問い合わせ

博報堂 広報室

宮川・寺島

tel : 03 - 5446 - 6161

博報堂生活総合研究所

井上

fax : 03 - 5446 - 6166

tel : 03 - 5446 - 6551

「聴覚障害のある人」に対するサポートは、他の障害者に比べても「意識も知識も低い」

「街で、聴覚に障害のある人が困っている時にサポートする」人は 32.5%。視覚障害者と車椅子には 6 割以上が「サポートする」

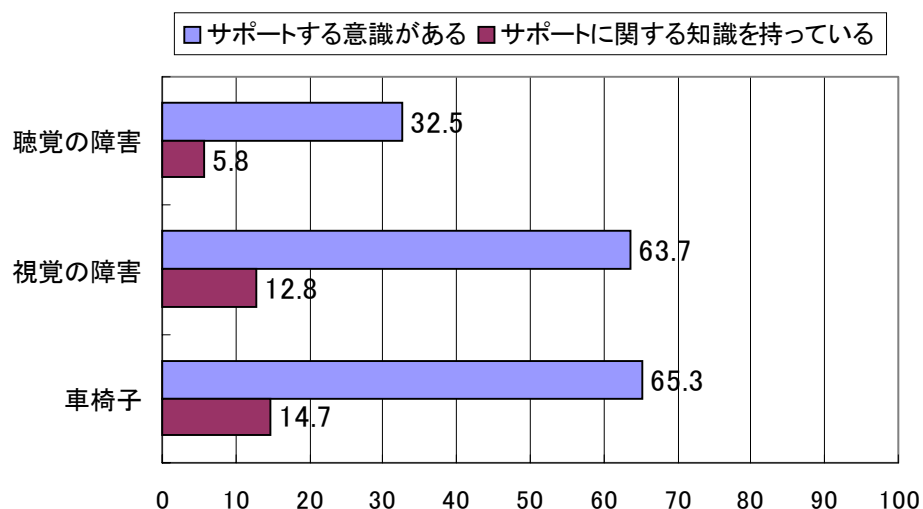
障害のある人へのサポート意識について、「街で、視覚に障害のある人が困っている時に声をかける：63.7%」、「街で、車椅子に乗っている人が困っている時に声をかける：65.3%」と、視覚障害者、車椅子の人へのサポート意識はともに 6 割以上と高くなっています。それに対して、「聴覚に障害のある人が困っている時にサポートする」は 32.5%と、約半分の 3 割にすぎません。その理由として、「聴覚に障害のある人が見た目ではわからない」という意見が多くみられ、「見えない障害」と言われる聴覚障害の問題を反映した結果となりました。

「聴覚に障害のある人をサポートするのに十分な知識を持っている」人は 5.8%。意識はあっても知識がないのが現状。

障害のある人へのサポートに関する知識については、「聴覚に障害のある人をサポートするのに十分な知識を持っている：5.8%」「視覚に障害のある人をサポートするのに十分な知識を持っている：12.8%」「車椅子に乗った人をサポートするのに十分な知識を持っている：14.7%」とどれも低く、サポート意識の高さに比べてサポートに関する知識がないことがわかりました。聴覚の障害についてはここでも最も低く、「見えない」ばかりではないサポートの難しさが浮き彫りとなりました。

また、このような「障害のある人へのサポートに関する基礎的知識」については、「総合教育など学校授業で取り入れるべき」が 93.2%と、学校教育に対する期待が高くなっています。

### 「障害のある人への意識と知識」

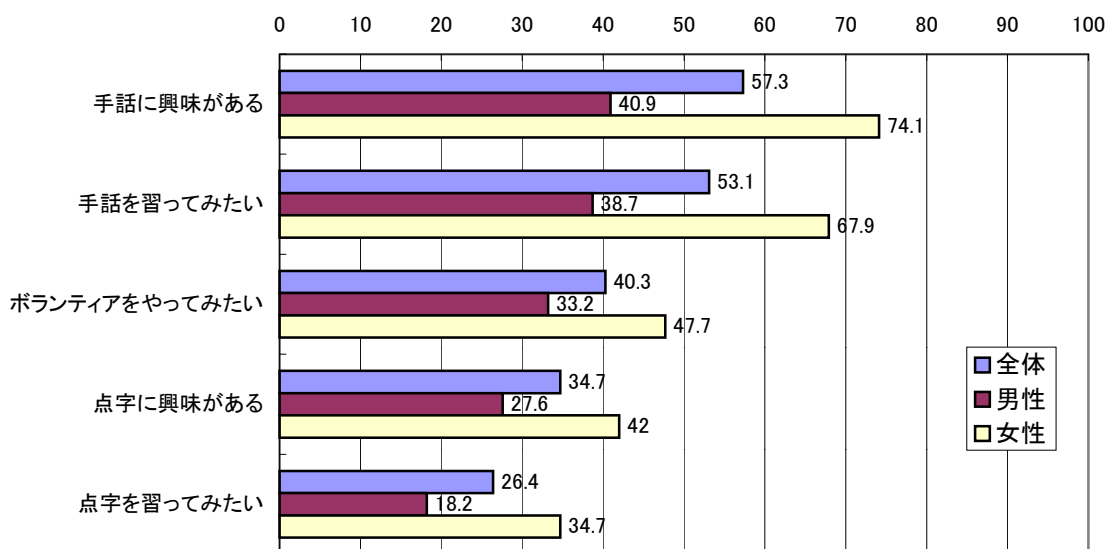


半数以上の人（53.1%）が「手話を習ってみたい」 - 点字を習ってみたい人の約2倍。特に女性は手話に高い興味・関心。

手話、点字、ボランティアへの興味について、「手話に興味がある：57.3%」「手話を習ってみたいと思ったことがある：53.1%」と半数以上の人 が手話に興味を持っています。続いて、「障害のある人をサポートするボランティアをやりたいと思ったことがある：40.3%」「点字に興味がある：34.7%」「点字を習ってみたいと思ったことがある：26.4%」と続き、手話に関する興味の高さが伺えました。

また、手話、点字、ボランティアの全てについて、女性は男性よりも高い興味を持っています。特に、女性の手話への興味が高く「手話に興味がある：74.1%」「手話を習ってみたいと思ったことがある：67.9%」と約7割の女性が手話に興味を持っています。

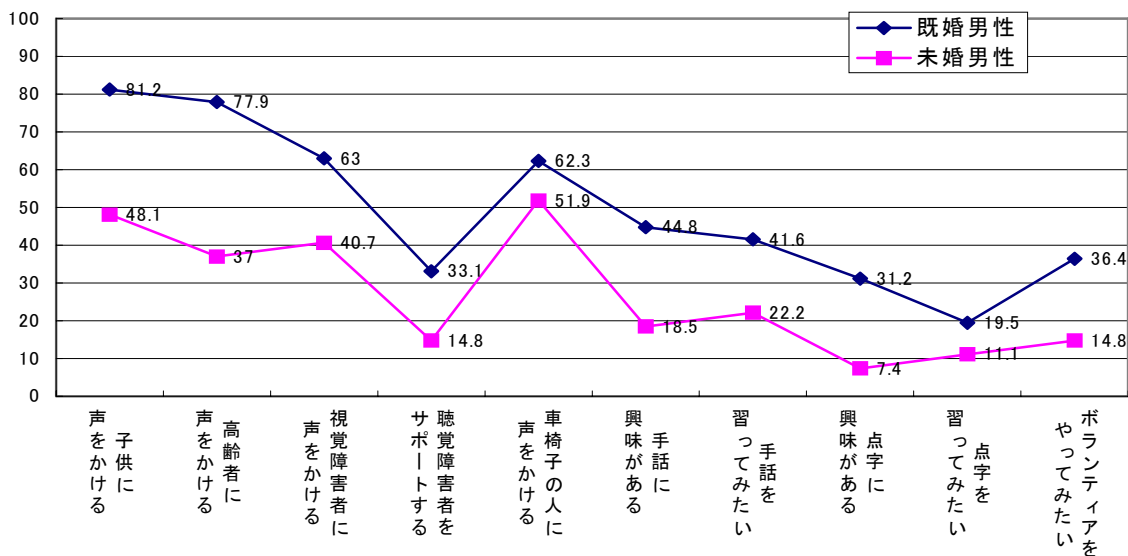
### 「手話・点字・ボランティアへの興味」



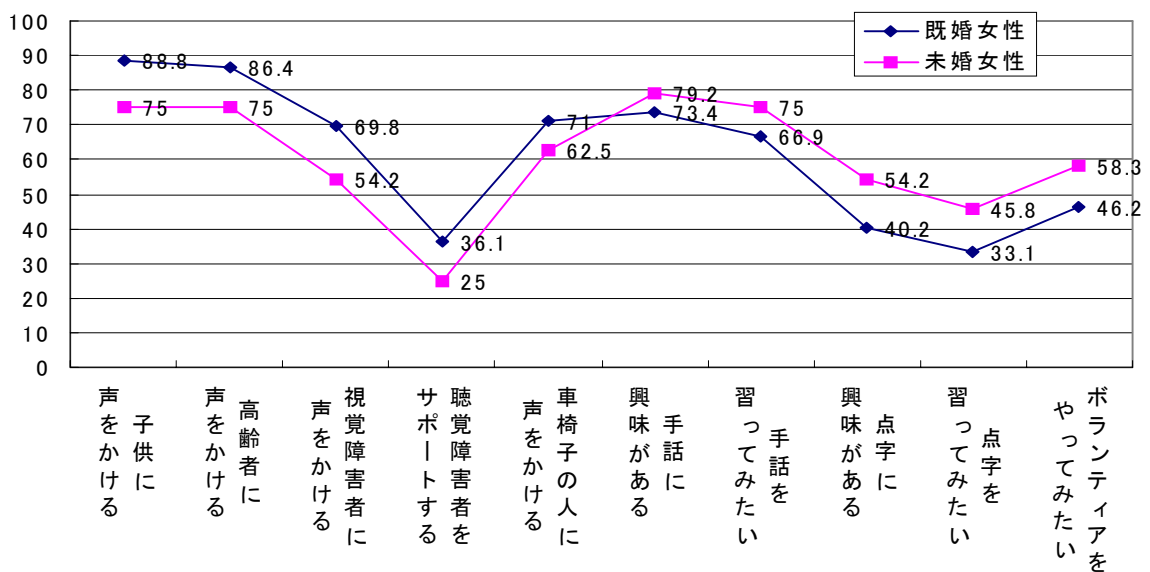
男性は結婚するとやさしくなる～未婚男性よりも既婚男性の方がサポート意識が高い。

サポートに関する意識について、男性は、「子供・高齢者が困っている時に声をかける」「視覚・聴覚に障害のある人、車椅子に乗っている人が困っている時にサポートする」「手話・点字・ボランティアへの興味」の全ての設問で、既婚男性が未婚男性を上回っています。特に、サポート意識の差が大きいのは、子供と高齢者に対するサポート意識で、「子供が困っている時に声をかける」では、未婚男性が48.1%に対し、既婚男性は81.2%で、約1.7倍も高く、「高齢者が困っている時に声をかける」では、未婚男性37%に対し、既婚男性77.9%と、約2.1倍にもなっています。それに対して、女性は、男性ほど既婚者と未婚者の差は見られませんが、「子供・高齢者が困っている時に声をかける」「視覚・聴覚に障害のある人、車椅子に乗っている人が困っている時にサポートする」については既婚者が高く、「手話・点字・ボランティアへの興味」は未婚者の方が高くなっています。

「既婚男性と未婚男性の意識の比較」



「既婚女性と未婚女性の意識の比較」



約 8 割の人が「高齢者にやさしい」。年を取ればとるほどやさしくなる。

高齢者に対するサポートでは、「高齢者に電車で席を譲る：81.1%」、「街で、高齢者が困っている時に声をかける：78.3%」と、約 8 割の人がサポートすると回答しています。性別で見ると、「席を譲る」「声をかける」とも女性が男性を 1 割程度上回っており、女性の方が高齢者のサポートに積極的です。

また、年齢別で比較すると、年齢が高くなるにつれて積極的で、50～70 歳代では、「高齢者に電車で席を譲る：84.6%」「街で高齢者が困っている時に声をかける：93.6%」と高い数値となっています。

